

2022（令和4）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493600082	事業の開始年月日	平成19年8月1日
		指定年月日	平成19年8月1日
法人名	株式会社 エージサービス		
事業所名	グループホームいずみ別荘		
所在地	( 245-0017 ) 神奈川県横浜市泉区下飯田町811-4		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和4年12月1日	評価結果 市町村受理日	令和5年3月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

市営地下鉄ブルーライン「下飯田駅」から徒歩2分、相鉄線「ゆめが丘駅」から徒歩7分の場所にあり交通アクセスに恵まれた立地条件です。また、駅前を現在開発中で1年後には商業ビルや駅前公園が出来る予定となっています。お部屋の窓からは富士山を望み、近くには和泉川遊歩道が有り歩きながらカワセミ等の野鳥や小川の魚を見ながらの散歩が楽しめます。芝生の庭や家庭菜園、四季折々の花が咲く花壇を入居者様と手入れをし収穫を楽しみ、日光浴をしながらお茶を楽しむ毎日です。認知症の特性を職員全員で理解し、個々の症状や性格、今までの人生をふまえた上で、薬に頼ることなく対応と環境設定を行い、症状の改善と穏やかな暮らしを送って頂けるように取り組んでいます。「誰かの為に、誰かの役に立ちたい」と思うのは、職員だけではなく、入居者も同じです。出来ないことを嘆くことなく、「出来る事を誰かの為に」を大切に自分で出来る事だけではなく、調理や掃除洗濯も入居者と職員で行っています。職員も「お世話をさせて頂きありがとうございます」の気持ちを常に持ち、入居者も職員も毎日あちこちで「ありがとう」が飛び交う、そんな場所が弊社「いずみ別荘」です。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年1月18日	評価機関 評価決定日	令和5年3月7日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

小田急江ノ島線の「湘南台」駅から横浜市営地下鉄ブルーラインで一つの「下飯田」駅下車で徒歩3分のところにあります。駅周辺は郊外型都市形成の再開発が進められ、近くにショッピングモールの建設も予定されています。

<優れている点>

駅周辺には広い敷地を有した低層の事業所が数ヶ所あり、地域全体にゆったりした都市空間を感じ取ることができます。ホームはその一角に立地しています。緑地を十分確保し、広い芝生にはベンチとテーブルを設置し、利用者は木々に飛んでくる小鳥のさえずりの下で自然を満喫することができます。敷地の一部には季節の花が咲き、大根やブロッコリーなど数種類の野菜を育てています。玄関ホールは整理整頓が行き届き、細かい配慮をしたディスプレイは、玄関から入る来訪者も楽しませてくれています。事業所のトイレは、利用者も職員もみんなが使いたくなるようにと、職員による手作りで全てを違うレイアウトにしています。一人ひとり好みのトイレがあり、排泄介助にも繋がっています。また、残存能力を大切に役割を持ち、多くの利用者が食事作りや片付け等に参加しています。

<工夫点>

外出対応を積極的に実施しています。周辺の散歩や買い物、敷地内の芝生の庭などの機会を増やせるよう、職員はタイミングを見ながら、利用者と一緒に外に出るようになっています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームいずみ別荘
ユニット名	1階 つる

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は職員からの意見を集め、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作りました。職員が見える所に掲示する事で共有し、皆が同じ目的に向かって業務を実践している。	法人の理念を念頭に入れたうえで、ホームとしての理念を全職員が意見を出し合い作り上げています。職員一人ひとりが考えることが大事であるとの管理者の考えで実行しています。理念は新任職員にも詳しく伝えて、日々の業務に活かしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍前は、ひまわり施設や近隣町内会とイベントなどを通じて交流していたが、現在は出来ない状況である。散歩に出かけた時に、挨拶や少し話す機会を設ける事は出来るようになっていきます。	コロナ禍により地域のイベントの参加には至っていませんが、隣接する障がい者施設から貰う便りなどで情報を共有し交流をしています。散歩の際に近所の馴染みの人に野菜や花を貰ったり、挨拶や世間話を交わすなど、コロナ禍でも行える継続の工夫をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍前は、近隣住民の方を招いてお祭りや幼児と庭で遊んだりしていましたが、現在は出来ない状況である。今できる事は、花壇・鉢植えのお花や畑の水やりや収穫している姿、庭での活動や散歩風景を見て頂く事ですが、感染が落ち着き次第交流していきたい。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の為、書面にて開催しています。	コロナ禍により書面開催とし、2ヶ月に一度実施しています。家族をはじめ、地域でかねてより交流のあった特別養護老人ホーム関係者及び地域ケアプラザに、暮らしの紹介やホームの行事、ヒヤリハット事例などを発信しています。	自治会や地区の民生委員に向けても同様の内容の他に、事業所の強みを生かした内容や事柄を添えるなどの展開が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	コロナ禍の為、主にメールでのやり取りになっていますが、これからも積極的に協力関係を築けるよう情報収集や連絡を行っていきたい。	介護保険制度による事業所の変更届や更新時の行政書類は電送や郵便ではなく、直接窓口を持参しています。行政との連携をより深く持つよう日頃から心掛けています。行政からの研修案内も必要なものはできるだけ参加するように努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に研修を行ったり、日々のケアの中で身体拘束になっていないか職員同士が話し合い、身体拘束廃止に繋げている。	身体拘束適性化委員会を一年以内に立ち上げたいとの管理者の意向があり、準備を進めています。管理者は脱スピーチロックに向けて、ホーム全職員の日常の言葉として、「ありがとうございます」、「お願いします」、「助かります」の3つの言葉を積極的に使っていくことを推進しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日頃から管理者や介護支援専門員・リーダーとケアや私生活について相談しやすい雰囲気を作り・ストレスを溜めこまない環境作り・虐待発見時に相談しやすい環境作りをおこなっている。内部研修にて虐待について学び防止に努めている。	虐待は知識不足やストレスを主な原因として発生するのではないかとの視点に立ち、リーダー教育に力を入れています。職員はストレスチェックを行い、勤務の希望休は優先して休めるように配慮しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度については入居者が申し込みをされる為職員に説明を行ったが定着されていない。職員全体が権利擁護について積極的に学ぶ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関しては本社職員が丁寧に説明を行っています。不安や疑問点などは利用者のご家族から伺い、詳細に説明をし同意を得るようにしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族とは手紙や電話、面会時にご意見や要望を伺う機会があります。普段から話しやすい雰囲気作りを心掛け、要望に関してはユニット会議で話し合いケアプランに反映しています。	コロナ禍により面会が厳しく制限される中、家族の希望にできるだけ添えるように、予約制で15分程度の面会を実施しています。体調等を見ながら、散歩や芝生のある庭で過ごすなど、外気に触れる声掛けを実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回のユニット会議で職員の意見や提案を聞いたり、個別面談時に聞く機会を設けている。	職員の個人面談を10月と3月に実施しています。各人の業務や健康に関する話の他、個人的な話も含めて対応しています。面談の中で挙がる業務の段取りや、暮らしのプログラムに関する改善に結びつく意見などを反映しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の意見を聞いて働きやすいよう業務の変更を都度行っていると共に、ストレス度合いを把握するようにしている。また、休憩場所も寛げるよう変化し続けている。	残業や業務上の「無理をさせない」、「仕事の分散」など一方的に負担がかからないように配慮しています。管理者は、積極的に職員の話に耳を傾け、話し易い雰囲気づくりを意識しています。得られた意見はユニット会議で共有し水平展開をしています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員には慣れるまでは同じ職員が付きマンツーマンでOJTを行う。個人差があるので、期間は決めずに指導者が大丈夫と判断した場合に管理者へ報告して、管理者との面談を経て単独業務に入る仕組みを取っている。	業務の見える化を図っています。早出・日勤・遅出の業務内容や流れを記入した「業務カード」を作成し、新任職員にも理解しやすいような工夫をしています。OJT研修にも力を入れ、多数の職員が介護福祉士の資格を有し、今年度も数名の職員が合格しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ渦前は、他グループホームと交換研修を行い勉強をしていたが、現在は出来ていない状況です。感染が落ち着き次第積極的に交流していきたい。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	相談時に本人や家族の想いや、困りごとを把握できるように時間をかけて話を聞き、環境変化に伴うリスクと具体的にできる援助を提示する事で、信頼を築いている。中には入所が適切でない場合もあり、他のサービスの説明も重ねて行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所を決めるまでの経緯と家族の心労や本人の不安と出来る限り時間をかけて聞き取り、今後の暮らしに望むことを導き出して、ホーム内で出来る事と対応できないことを説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス利用前に十分な話し合いを行い、ご入所から1か月間は観察期間を設け、施設サービス内で出来る範囲のことをしながら、個別に必要な対応と環境整備を提供している。また、ノートや記録に記入して職員が共有・確認できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家事や生活全般を入居者と共同作業で行い、入居者に対し感謝をするという認識を共有している。お互いに協力しながら1日を楽しく過ごせるような、声掛けや取り組みをしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人と家族がお手紙や電話・面会で連絡を取り合う事で絆を大切にし、入居者が寂しくならないよう支えたり、入居者の近況をお伝えしたり質問等に答えたりなどご家族への配慮も行っています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ渦前は、友人・家族と面会や外出をしていたが、現在は出来ない状況である。生まれ育った場所やご家族のこと、仕事のことなど記憶が薄れないように日常会話の中で思い出せるよう支援しています。	朝の連続ドラマを見るのが日課だった人が、ホームに入居してからも継続して視聴しています。絵手紙が得意な職員の家族の協力のもと、複数の入居者が、色付けなど、思い思いに暑中見舞いや年賀状を作成し投函するなど、馴染みの人の関係継続を支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	出来るだけ相性の合う入居者同士で家事やレクリエーション、食事をしている。但し固定し過ぎないように散歩や庭でのひと時をメンバーを変えたりして支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後に追って家族や施設等に連絡を取り、経過の確認や必要な相談支援を行っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中の活動や会話から、本人の希望や意向を汲み取るよう努めている。意思疎通困難な方はその時々表情などを判断しサポートしている。また、個人記録に記入する事で職員間で本人の意向の情報共有し、対応を検討している。	日常のケアを通して、よく話を聞くことを徹底しています。意思表示が困難な方の細かな行動やサインは特に見逃さないようにしています。気付いたことはその都度、連絡ノートで共有し、利用者が「自分のペース」で生活できるよう心掛けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	主にご家族から経歴、業歴、生活歴を伺い事前に介護サマリー作成時に記載し職員間で情報共有をしている。本人からも体験や思い出話を伺い把握に努めている。弊社利用前のサービス担当者に利用時の様子を聞き取ることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの一日の過ごし方を把握し、出来る事を維持継続し、出来る事が増えるよう支援に努めています。また、周りに合わせ過ぎず自分らしい生活ペースを尊重するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護支援専門員を中心に、居室担当者・エッソメンバー、時にはご本人を交え意見交換をし、目標に向けた取り組みを決めその内容をご家族に伝え介護計画を立てている。内容により期間が異なるがモニタリングを行っている。	個別のサービス担当者会議に医師・看護師・歯科医師から予めコメントをもらった上で意見反映しています。計画の検討はユニット介護で共有しています。作成した介護計画書は家族に送っています。実施記録は日々対応し、モニタリングに反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に日々の様子を記入し、状態変化時の対応やケアの工夫を共有している。介護計画の見直しについても活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	訪問診療や看護等の医療との連携を図り、本人の状態や家族への配慮をしながら柔軟に対応をするよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍の為地域資源の活用は出来ていません。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前に、かかりつけ医の診療情報提供書を取り寄せ、訪問診療の医師につなぎ、訪問診療の専門外の場合は定期受診の付き添いを、ご家族もしくはこちらで行っている。	入居時に家族や入居者から希望を聞いています。現在は入居者全員が提携の医療機関で受診しています。眼科医、歯科医の外来や、訪問看護24時間サポート体制により、安心できる医療提携となっています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調変化や些細な訴えを訪問看護師用の書式に記載し、訪問時に確認してもらえる体制を作っている。必要と判断されれば適切に訪問診療の医師に繋げてくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の地域連携室と連絡を密にし退院後の対応のアドバイスを受けながら、出来るだけ短期間で退院出来るようにしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	体調不良やレベル低下が現れた際には、家族、医療、職員間で連携を取り本人、家族の意向を踏まえ常に意思確認をしながら、安心できる最後の場を提供するよう取り組んでいる。	入居時に重度化した場合や終末期のあり方について丁寧に説明をし、承諾を得ています。居室担当中心に看取り計画を立て、入居者の好きな音楽をかけたりするなど、最期まで最良の状態であるよう支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	今年度は書面にて内部研修は行っているが、定期的な開催は出来ていない。緊急時連絡先等はファイリングしつつでも活用できるようにはしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の指導の素年1回は行い、施設内訓練も別途行っている。(計2回) 今年度は地域との連携訓練は行えていない。	年2回、消防・避難訓練を実施しています。9月は日中を想定し、3月は夜間想定で消防署の指導の下、職員、入居者全員で実施しています。職員は訓練後に必ず振り返りを行い見直しをしています。今後は防災訓練や近隣地域との合同開催も検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者一人ひとりの個性や性格に合わせた声掛けや、自己決定しやすい声掛けをするよう職員は意識しながら対応に努めている。	入居者への言動や距離感を常に留意し、敬意をもって接することを心掛けています。時間で動くのではなく、一人ひとりを尊重し、「暮らしの中で」をモットーに無理強いせず、職員は「見守る・待つ」ことを意識して支援に務めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が希望を表しやすい環境づくりを行い、自己決定できるような声掛けを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的なタイムスケジュールはあるが、その日の体調や気分に合わせて柔軟な対応をしている。できうる限り個別の対応ができるような人員を配置している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時・入浴時に、寒がり暑がりといった事や季節を考え、本人が好きな衣服で生活を楽しめるよう一緒に選んだりアドバイスをしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理、盛り付け、配膳、片付けと全てにおいて何らかの協力をして頂き、畑と一緒に収穫した野菜を相談しながら調理したりしている。また自分で食べられる量のご飯を盛って頂くことで満足感を感じて頂き、体調面は医師と都度相談している。	食材や献立は外部委託しています。職員が見守る中、入居者が包丁やピーラーを使って調理準備や盛り付け、配膳、片付け等を行っています。イベントでは希望を聞いて職員と一緒に作ったり、庭の野菜を収穫したりして楽しい時間になるように工夫しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	フードリクコーナーを設け、好きな時に好きな物を飲んで貰える場所を作っている。水分量も職員が記載し1日トータルが把握できるようにしている。少ない方には、少量ずつ小分けにして提供したり工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアや夜間の義歯消毒、週1回の訪問歯科を行っている。個別の能力に合わせて口腔ケアの介入方法を変え、介入する職員で差が出ないように情報共有している		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	能力を把握し、定時誘導や一人ひとりの排泄のパターン、習慣に沿って見守りや声掛けをしながら支援している。	職員がDIYをして全てのトイレの内装に変化をつけています。自ら進んでお気に入りのトイレを利用している入居者もいます。入居者が自分で着脱できるようにリハビリパンツをサイズアップするなどの工夫をしています。職員は過剰介護しないで見守ることで自立支援に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	一日を通して少しずつでも摂れる時に飲食できるようにしたり水分摂取量の低下が無いよう表で把握し声掛けを行ったりしている。体操や散歩も行い予防に努めている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本の入浴曜日は設定掲示している。それを見て今日は何曜日で入浴の日と認識している方もいれば、多く入りたい、今日入りたいといわれる場合は希望に合わせている。脱衣所・浴室に音楽を流すなどの取り組みもしている。	週に2~3回、午前中の入浴時間の設定をしています。要望があれば、午後も対応しています。拒否をする人には、希望の時間に合わせる等の工夫をしています。入浴が楽しめるように、着替える洋服を一緒に選んだり、浴室に音楽を流す工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活リズムを整え、日中の活動量を上げていく事で、夜間の安定した睡眠を確保して頂いている。また日中の休息については、年齢や体調など一人ひとりに合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の効能、副作用等はファイリングし職員が閲覧できる。服薬変更は共有できるようにユニットノートに記載している。誤薬防止のWチェックをし、本人にも最終確認してから服用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その人らしい生活が送れるように一人ひとりが得意な事や能力に応じた役割や楽しみ事などを支援している。お酒が好きな方には本人と相談して曜日や種類を決めて提供している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	昨年度と同様で制限のある中での支援でした。庭で外気浴をしたり、一人ひとりの歩行状態に合わせて散歩に行っています。好きな道順で歩いたり気の合う方同士でおしゃべりをしたり楽しんで頂けるよう支援しています。	近所へ散歩や買い物に行っています。雨の日は、かつて住んでいた所や、その近隣へのドライブなどもしています。庭の畑の世話や、日光浴をして季節を肌で感じてもらえるような工夫をしています。また、家族の協力のもと美容院など馴染みの場所へも出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個別の金銭管理は行っていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人希望時は、電話は居室でゆっくり話せるように配慮している。手紙は書ける人はそのまま、難しい方は職員立ち合いもしくは補助文書を添え出してもらっている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有部分に関しては、出来るだけシングルにかつ殺風景にならない様な空間作りを意識している。トイレに関しては一つ一つ雰囲気を変え、居心地良く過ごせるよう工夫をしている。リビングやお風呂では無音にならないようカフェ音楽等常に流し寛げるようにしている。	明るく広々とした清潔感があるリビングになっています。ウッドデッキの先には手入れの行き届いた庭が広がっています。視界に配慮したソファやテーブル配置は、寛ぎやすい空間となっています。無音はストレスになることもあり、常に音を意識し、軽音楽や歌を流すなどの工夫もしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有部分のレイアウトは、都度職員や入居者と相談し変更している。特に、ソファの位置は他の人を感じながらも一人の時間が持てるよう工夫している。また、カフェコーナーを作る事で自由に好きな飲み物がいつでも飲めるように工夫をしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居説明の際に、なじみの家具や見慣れた食器の持ち込みをお勧めしている。見慣れない新品は極力避けて頂き、居室内の配置は入居前の配置を参考にご本人と決めている。特にベッド周りは同じになるようにしている。	ベッド・エアコン・クローゼットを完備し、食器や毛布など馴染みの物を持ち込んでいます。安全に移動できるよう家具の配置に配慮し、居心地の良い空間作りを心掛けています。職員と一緒にモップ掛けや整理整頓をし、清潔保持に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	出来ないことに対してはサポートして、出来ない事には環境整備を行い、出来る事は出来るまで声を掛けながら待つ事を職員全員で周知徹底している。特に視覚で分かりやすいように色や装飾、物品に工夫し自立に繋げている。		

事業所名	グループホームいずみ別荘
ユニット名	2階 かめ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は職員からの意見を集め、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作りました。職員が見える所に掲示する事で共有し、皆が同じ目的に向かって業務を実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ渦前は、ひまわり施設や近隣町内会とイベントなどを通じて交流していたが、現在は出来ない状況である。散歩に出かけた時に、挨拶や少し話す機会を設ける事は出来るようになっていきます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ渦前は、近隣住民の方を招いてお祭りや幼児と庭で遊んだりしていましたが、現在は出来ない状況である。今できる事は、花壇・鉢植えのお花や畑の水やりや収穫している姿、庭での活動や散歩風景を見て頂く事だけですが、感染が落ち着き次第交流していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ渦の為、書面にて開催していません。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	コロナ渦の為、主にメールでのやり取りになっていますが、これからも積極的に協力関係を築けるよう情報収集や連絡を行っていききたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に研修を行ったり、日々のケアの中で身体拘束になっていないか職員同士が話し合い、身体拘束廃止に繋げている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日頃から管理者や介護支援専門員・リーダーとケアや私生活について相談しやすい雰囲気を作り・ストレスを溜めこまない環境作り・虐待発見時に相談しやすい環境作りをおこなっている。内部研修にて虐待について学び防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度については入居者が申し込みをされる為職員に説明を行ったが定着されていない。職員全体が権利擁護について積極的に学ぶ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関しては本社職員が丁寧に説明を行っています。不安や疑問点などは利用者のご家族から伺い、詳細に説明をし同意を得るようにしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族とは手紙や電話、面会時にご意見や要望を伺う機会があります。普段から話しやすい雰囲気作りを心掛け、要望に関してはユニット会議で話し合いケアプランに反映しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回のユニット会議で職員の意見や提案を聞いたり、個別面談時に聞く機会を設けている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の意見を聞いて働きやすいよう業務の変更を都度行っていると共に、ストレス度合いを把握するようにしている。また、休憩場所も寛げるよう変化し続けている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員には慣れるまでは同じ職員が付きマンツーマンでOJTを行う。個人差があるので、期間は決めずに指導者が大丈夫と判断した場合に管理者へ報告して、管理者との面談を経て単独業務に入る仕組みを取っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍前は、他グループホームと交換研修を行い勉強をしていたが、現在は出来ていない状況です。感染が落ち着き次第積極的に交流していきたい。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	相談時に本人や家族の想いや、困りごとを把握できるように時間をかけて話を聞き、環境変化に伴うリスクと具体的にできる援助を提示する事で、信頼を築いている。中には入所が適切でない場合もあり、他のサービスの説明も重ねて行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所を決めるまでの経緯と家族の心労や本人の不安と出来る限り時間をかけて聞き取り、今後の暮らしに望むことを導き出して、ホーム内で出来る事と対応できないことを説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス利用前に十分な話し合いを行い、ご入所から1か月間は観察期間を設け、施設サービス内で出来る範囲のことをしながら、個別に必要な対応と環境整備を提供している。また、ノートや記録に記入して職員が共有・確認できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家事や生活全般を入居者と共同作業で行い、入居者に対し感謝をするという認識を共有している。お互いに協力しながら1日を楽しく過ごせるような、声掛けや取り組みをしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人と家族がお手紙や電話・面会で連絡を取り合う事で絆を大切にし、入居者が寂しくならないよう支えたり、入居者の近況をお伝えしたり質問等に答えたりなどご家族への配慮も行っています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍前は、友人・家族と面会や外出をしていたが、現在は出来ない状況である。生まれ育った場所やご家族のこと、仕事のことなど記憶が薄れないように日常会話の中で思い出せるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	出来るだけ相性の合う入居者同士で家事やレクリエーション、食事をしている。但し固定し過ぎないように散歩や庭でのひと時をメンバーを変えたりして支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後に追って家族や施設等に連絡を取り、経過の確認や必要な相談支援を行っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中の活動や会話から、本人の希望や意向を汲み取るよう努めている。意思疎通困難な方はその時々表情などを判断しサポートしている。また、個人記録に記入する事で職員間で本人の意向の情報共有し、対応を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	主にご家族から経歴、業歴、生活歴を伺い事前に介護サマリー作成時に記載し職員間で情報共有をしている。本人からも体験や思い出話を伺い把握に努めている。弊社利用前のサービス担当者に利用時の様子を聞き取ることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの一日の過ごし方を把握し、出来る事を維持継続し、出来る事が増えるよう支援に努めています。また、周りに合わせ過ぎず自分らしい生活ペースを尊重するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護支援専門員を中心に、居室担当者・エッセンシャル、時にはご本人を交え意見交換をし、目標に向けた取り組みを決めその内容をご家族に伝え介護計画を立てている。内容により期間が異なるがモニタリングを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に日々の様子を記入し、状態変化時の対応やケアの工夫を共有している。介護計画の見直しについても活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	訪問診療や看護等の医療との連携を図り、本人の状態や家族への配慮をしながら柔軟に対応をするよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍の為地域資源の活用は出来ていません。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前に、かかりつけ医の診療情報提供書を取り寄せ、訪問診療の医師につなぎ、訪問診療の専門外の場合は定期受診の付き添いを、ご家族もしくはこちらで行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調変化や些細な訴えを訪問看護師用の書式に記載し、訪問時に確認してもらえる体制を作っている。必要と判断されれば適切に訪問診療の医師に繋げてくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の地域連携室と連絡を密にし退院後の対応のアドバイスを受けながら、出来るだけ短期間で退院出来るようにしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	体調不良やレベル低下が現れた際には、家族、医療、職員間で連携を取り本人、家族の意向を踏まえ常に意思確認をしながら、安心できる最後の場を提供するよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	今年度は書面にて内部研修は行っているが、定期的な開催は出来ていない。緊急時連絡先等はファイリングしいつでも活用できるようにはしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の指導の素年1回は行い、施設内訓練も別途行っている。(計2回) 今年度は地域との連携訓練は行えていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者一人ひとりの個性や性格に合わせた声掛けや、自己決定しやすい声掛けをするよう職員は意識しながら対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が希望を表しやすい環境づくりを行い、自己決定できるような声掛けを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的なタイムスケジュールはあるが、その日の体調や気分に合わせて柔軟な対応をしている。できうる限り個別の対応ができるような人員を配置している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時・入浴時に、寒がり暑がりといった事や季節を考え、本人が好きな衣服で生活を楽しめるよう一緒に選んだりアドバイスをしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理、盛り付け、配膳、片付けと全てにおいて何らかの協力をして頂き、畑と一緒に収穫した野菜を相談しながら調理したりしている。また自分で食べられる量のご飯を盛って頂くことで満足感を感じて頂き、体調面は医師と都度相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	フットドリンクコーナーを設け、好きな時に好きな物を飲んで貰える場所を作っている。水分量も職員が記載し1日トータルが把握できるようにしている。少ない方には、少量ずつ小分けにして提供したり工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアや夜間の義歯消毒、週1回の訪問歯科を行っている。個別の能力に合わせて口腔ケアの介入方法を変え、介入する職員で差が出ないように情報共有している		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	能力を把握し、定時誘導や一人ひとりの排泄のパターン、習慣に沿って見守りや声掛けをしながら支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	一日を通して少しずつでも摂れる時に飲食できるようにしたり水分摂取量の低下が無いよう表で把握し声掛けを行ったりしている。体操や散歩も行い予防に努めている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本の入浴曜日は設定掲示している。それを見て今日は何曜日で入浴の日と認識している方もいれば、多く入りたい、今日入りたいといわれる場合は希望に合わせている。脱衣所・浴室に音楽を流すなどの取り組みもしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活リズムを整え、日中の活動量を上げていく事で、夜間の安定した睡眠を確保して頂いている。また日中の休息については、年齢や体調など一人ひとりに合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の効能、副作用等はファイリングし職員が閲覧できる。服薬変更は共有できるようにユニットノートに記載している。誤薬防止のWチェックをし、本人にも最終確認してから服用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その人らしい生活が送れるように一人ひとりが得意な事や能力に応じた役割や楽しみ事などを支援している。お酒が好きな方には本人と相談して曜日や種類を決めて提供している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	昨年度と同様で制限のある中での支援でした。庭で外気浴をしたり、一人ひとりの歩行状態に合わせて散歩に行っています。好きな道順で歩いたり気の合う方同士でおしゃべりをしたり楽しんで頂けるよう支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個別の金銭管理は行っていません。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人希望時は、電話は居室でゆっくり話せるように配慮している。手紙は書ける人はそのまま、難しい方は職員立ち合いもしくは補助文書を添え出してもらっている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有部分に関しては、出来るだけシンプルにかつ殺風景にならない様な空間作りを意識している。トイレに関しては一つ一つ雰囲気を変え、居心地良く過ごせるよう工夫をしている。リビングやお風呂では無音にならないようカフェ音楽等常に流し寛げるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有部分のレイアウトは、都度職員や入居者と相談し変更している。特に、ソファの位置は他の人を感じながらも一人の時間が持てるよう工夫している。また、カフェコーナーを作る事で自由に好きな飲み物がいつでも飲めるように工夫をしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居説明の際に、なじみの家具や見慣れた食器の持ち込みをお勧めしている。見慣れない新品は極力避けて頂き、居室内の配置は入居前の配置を参考にご本人と決めている。特にベッド周りは同じになるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	出来ないことに対してはサポートして、出来ない事には環境整備を行い、出来る事は出来るまで声を掛けながら待つ事を職員全員で周知徹底している。特に視覚で分かりやすいように色や装飾、物品に工夫し自立に繋げている。		

2022年度

事業所名

作成日： 令和5年 3 月 14 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	コロナの為、約3年にやもうえず生まれてしまった関係性の距離の修復と感染予防の両立。	コロナ緩和に向け、運営推進会議の対面開催。同時に高齢者を感染から守る為の感染予防をしつつ、地域とのコミュニケーション構築させる。	多方面からの参加とご家族様参加を屋外で行う。	12ヶ月
2	35	大規模災害時の備蓄及び当日のマニュアル作成はあるが、災害後の職員間の連絡ツールが未確定。	災害発生後、1週間位を目標に交代で現場に入れる体制作り。	SNS等を活用し、迅速な情報共有と安否確認を行い、入居者の安心と安全が守れるシステムを作る。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月